The Star in the West

東京西ワイズメンズクラブ会報

THESERVICECLUB FOR THEYMCA
THEY´S MEN´S CLUB OF TOKYO-NISHI(03)3202-0342
c/o TOKYO YMCA YAMATE CENTER.2-18-12 NISHIWASEDA,SHINJUKU-KU,TOKYO 169-0051,JAPAN

国際会長主題　「価値観、エクステンション、リーダーシップ」
アジア会長主題　「変化をもたらそう」
東日本区理事主題　「未来に向けて今すぐ行動しよう」
あずさ部部長主題　「変わるに挑戦！」
東京西クラブ会長主題　「楽しく、元気で、そして仲間を迎えよう！」

2022年10月号
NO　553

招かれる人は多いが、選ばれる人は少ない。
新約聖書マタイによる福音書22章14節

若返りを求めて健康を

大野　貞次

先日まで蝉が鳴き暑苦しい季節も虫の音に代わり秋を感じるこの頃ですね。また、キンモクセイの甘い香りが漂い始めるこの季節、私たちのクラブも秋を迎えてしまい、冬に突入してしまうのでしょうか？ そんなことを考えながら自分を見つめ直していますと、何やら体に異変を感じるようになり、物事がうまく進められず、健康に不安を感じることが多くなりました。

ワイズ活動は体も精神も健康でなければより良い活動は望めないのではと、しきりに考えますが、うまく出来ず戸惑うばかりです。

皆さんはどうでしょうか。体も脳の働きも精神も活発な若い方の入会を望みますが、身の回りには存在せず、天に召される方が多くなり次は我が身と考えます。それではいけないと教会の仲間5人と旅行を計画し実行、体も精神もリフレッシュ、が出来たかな？楽しかったことは確かです…。

メンバーの内1人はワイズメンですが他の3人は未入会、誘いましたが残念…、理由は住むところが遠くまた高齢のためとのことでした。

体が動くうちに何とか入会希望者を見つけ出したいものです。他クラブと比較するものではないのですが、参考になることはないか探してしまいます。甲府地区のクラブの力強い働きを見るたび感心させられ、羨ましくも思います。よく見るとクラブの構成メンバーの幅の広さ、職業の多様性とクラブ活動に適した活動が考えられます。一歩でも半歩でも近付きたいものです。

本当に頑張らなければ、「がんば・がんば」と鞭打って楽しい例会を目指せ。みんなで10月例会を楽しみましょう。

川幅が広くなった野川中流。中島橋付近

WHO 野川シリーズ⑤
川に寄り添う人と社寺

WHOウォーキング「野川シリーズ⑤は、10月22日（土）、京王線調布駅集合です。9月に大雨のため、途中で歩き残した部分を含めて、調布から世田谷区喜多見に入ります。

詳しくは、P4のご案内をご覧ください。

11月には、成城の住宅地の崖線、次太夫堀公園を訪れます。

東京YMCAのホームページでWHOウォーキング報告と予告をみることが出来ます。カラー写真が鮮やかです。

クラブ役員

会　　長　高嶋美知子
副 会 長　吉田　明弘
書　　記　本川　悦子
会　　計　篠原　文恵
担当主事　横山　弥利

9月の記録				ニコニコ	6,023円
在籍者数	12人	メネット	1人	クラブファンド	0円
（内功労会員）	1人				
出席者数	10人	コメット	一人	ファンド残高	114,715円
メーキャップ	1人	ビジター	1人	ホテ校ファンド	0円
出席率	100%	ゲスト	0人	ホテ校残高	26,650円
内Zoom参加	0人	出席者合計	12人	WHO参加者	11人

10月例会のご案内

強調テーマ：　ASF

久々の厚木クラブの佐藤節子さんの元気な姿を拝見できますし、軽快なお話も聞けます。
軽い運動が出来る服装でと望まれています。体感もします。元気に集まりましょう。タイトルは「脳をくすぐる心もカラダもスッキリ」です。

日時：10月20日(木)18：30～20：30
会場：ウエルファーム杉並　03-5335-7318
会費：1,500 円
担当：A 班（大野、篠原、村野）

HAPPY BIRTHDAY
お客様を交えてお祝いしましょう。

受　付　大野　貞次
司　会　篠原　文恵

開会点鐘	高嶋美知子会長
ワイズソング　静唱	一　同
聖句朗読・祈祷	大野　貞次
会長挨拶とゲストご紹介	会　長
会食	
卓話	**脳をくすぐる心もカラダもスッキリ！～脳トレ遊びをしながら猫背矯正、自分の体のゆがみを体感するフレイル予防～　厚木クラブ・佐藤節子さん**
ハッピー・バースデイ	
諸報告	会　長
YMCA 報告	横山　弥利
ニコニコタイム	一　同
閉会点鐘	会　長

—9月事務会報告—

日時：9 月 22 日（木）
17:00～18:30
会場：東京 YMCA 山手センター
出席者：石井、大野、河原崎、篠原、高嶋、本川、村野、吉田

＜報告事項＞
①8 月通常会計報告を承認した。
②甲府やまなみクラブのチャーターナイトにクラブから 6 人が出席した。
③11 月に台湾･台北で行われる予定だったワイズメンズクラブ国際協会 100 周年記念国際大会は来年 3 月に延期になった。

＜協議事項：例会関係＞
①10 月例会の卓話は、佐藤節子さん（厚木）に「脳をくすぐる心もカラダもスッキリ！」と題してお願いした。
②11 月例会の卓話は村野絢子さんの紹介で、大相撲元中村部屋親方夫人、中澤嗣子さんにお願いをした。後藤明久あずさ部長の公式訪問がある。担当 B 班（石井、鳥越、吉田）。
③12 月のクリスマス例会は C 班（神谷、河原崎、本川、横山）が担当する。会場、内容未定。
④1 月、2 月、3 月例会（東京世田谷クラブと合同例会）はそれぞれ担当班が計画する。内容は未定。

＜協議事項：例会以外＞
①東京 YMCA が主催するチャリティーランの山手センターの負担金 10 万円については、前月報告されたが、東京西クラブ、東京サンライズクラブ、東京たんぽぽクラブ、山手センターで協議し、それぞれ 2 万 5 千円を負担することが決まり、クラブは、予算の YMCA 協力費から支出したことが報告、承認された。
② YMCA のリーダー研修会(YVLF)の支援金 5 千円を支出したことが報告、承認された。
③国際協会に納入する負担金を全て言いなりに送金するのは、問題があるのではないかとの疑義が出た。クラブが国際に直接発言できる機会は、国際役員選挙と負担金しかないのだから意思を表現しようという提案であった。しかしそれを判断するには知識に欠けている。クラブで国際の事業について勉強を行なおうという方向に話が進んだ。

＜今後の予定＞
・10 月 15 日（土）あずさ部会&富士五湖クラブ 20 周年記念例会。クラブの参加申込者は 4 人です。
・第 3 回東西日本区交流会は、2023年2月4日(土)～5日(日)11 月から登録開始。

卓話者紹介

佐藤　節子(さとう・せつこ)さん
今年度厚木クラブ会長。
専門学校非常勤講師。
日本レクリエーション協会公認レクリエーション・コーデネーター、上級レクリエーション・インストラクター 。
日本スポーツ協会公認　スポーツコーチ 2（体操）、
國際経絡協会公認　経絡セラピスト。
内　容：誰でも簡単にできる優しいストレッチと手遊びゲーム。
服　装：動きやすい服と履きなれた靴
持ち物：フェイスタオル、飲み物、マスク
※　お腹から笑えます。決して難しく激しくありません。ご安心願います。不眠症にも効きます。

唯一のお客様、東京八王子クラブ花輪宗命会長と高嶋会長を囲んで

ー９月例会報告ー

９月例会はいつもとは少しスタイルを変えたメインイベントは2022-2023 年度東日本区役員交代式の動画を再編集した映像で鑑賞するという例会でした。

通常ならば区大会で行われる役員交代式ですが、今年は山梨YMCA 会館で、人数を制限しておこなったものです。席の場所によっては遠くから見るのとは一味違った感じを受ける交代式でした。この映像は交代式実況を編集し、ネットで各メンバーに流されたものです。これを観たクラブメンバーから「大会会場での交代式も感動的だが、編集されたものは、集中出来て、非常に理解しやすい」との声が複数あり、吉田明弘さんが特に区に依頼して、44分に再編集してもらったものです。

放映に先立って、役員交代式の意義、その映像を改めて鑑賞する意図について吉田さんから説明がありました。

役員交代式の式辞は、創立者ポールアレキサンダーが、約 100 年前に起草したもので、以来、運動が世界に広がり、国際憲法の改定は行なわれても、この式辞は不変で、世界の各レベルの役員交代式で用いられているそうです。今年も、最少でも、世界 1,500 クラブ役員が、25,000 人の会員と共に,この式辞を聞き、思いを新たにしているわけです。これはワイズメンズ運動推進の基本で、世界中、国や言葉、置かれた状況、環境が異なっていても通じ合っているのです。

映像鑑賞後ビジターの花輪宗命さんを交えての意見交換の時を持ち、役員交代式の基本はワイズ創立以来不変の様式であることについて学ぶことができました。　　（神谷幸男）

出席者：＜メンバー＞石井、大野、神谷、河原崎、篠原、高嶋、鳥越、本川、横山、吉田、＜メネット＞神谷、＜ビジター＞花輪宗命（東京八王子）、＜MU＞村野（9 月事務会）

久しぶりの北陸旅行

大野貞次

左から２人目は、富山YMCAから駆け付けた島田茂元総主事（能登島のホテルで）

何年ぶりだろうか、こんなプライベートな旅行は…。ワイズ活動では多くの地方に行きましたが区大会・部会等が目的でした。

今回のような３泊４日の気ままな観光目的では 40 年ぶりかな？教会の気の合う仲間の５人旅。平均年齢(77・2 歳)、私が一番年上でした。目的地は、金沢・能登・富山、大変楽しみに出かけました。

１日目は羽田から小松空港へ珍道中の始まり。空港でレンタカーの手続きの遅れ等で出発がもたつきましたが東尋坊へ向けて楽しいドライブの始まり、天候良。私は初めて見る景色、海の青さと対象的な切り立った岩場、入り組んだ入り江に感動。

２日目は雨模様。９時半に行動を開始。金沢城等の見学を変更し市内の、いしかわ赤レンガミュージアムの加賀本多博物館と石川県立歴史博物館を約３時間かけて見学。「百万石」と言われる加賀藩の繁栄、石川県の成り立ちを学ぶ機会となった。途中、ひがし茶屋街「古い料亭のたたずまい」を見学した。千里浜の渚、約 8km をドライブし和倉温泉に到着。

３日目の朝も雨模様、やれやれ。みんなで行動を打ち合わせし、和倉温泉をスタート、温泉街と対岸にある島、能登島に向かい、能登島水族館を見学することにした。大きな水槽には初めて見る大きなジンベイザメや 300 種以上の魚が泳いでいるのを、見学に来ていた幼稚園の子供達の歓声のなか童心に帰り見学。富山湾海岸通り新町にあるホテル古志に到着。

このホテルに元東京サンライズクラブのメンバーで、同盟の元総主事、現在は富山 YMCA の島田茂さんの訪問を受け感激、夕食を共にし、持参いただいた美味しい日本酒を飲み、夜更けまで歓談して過ごし就寝。

４日目は、初めて朝の散歩、海岸線に出ると朝焼けに染まる立山連峰そして青空を見て感激、海岸線を散歩し宿に戻り朝食。

旅の最後は晴天に恵まれ出発。島田さんの案内で、高岡市郊外で循環式有機農業を営む方の所へ向かった。棚田で合鴨農法で米を作り、鶏舎で鶏を飼い、エサは自前で作り、鶏糞は肥料として田ん

（P6・３段目へ続く）

野川に寄り添う人と社寺
—WHO10月案内—

野川も、今回のコースでは戦後流路を大きく変えています。しかし住む人と川と社寺の調和がとれ、野の花、色づいた柿など、「昭和人」には、懐かしい「日本の秋」を感じさせてくれます。國分寺崖線も随所でその特徴を主張しています。

期　日:2022 年 10 月 22 日(土)

コース：調布駅－＜バス＞－佐須－虎狛神社－祇園寺－旧榎橋－榎橋－馬橋－野川橋－糟嶺橋－糟嶺神社－入間川合流点－神明橋－きたみふれあい広場－喜多見不動－小田急線喜多見駅

集合・出発：京王線調布駅中央口地上交番前 10：00

解散：小田急線喜多見駅 14：30 頃

携行品：名札、健康保険証、マスク、弁当、飲料水、雨具、パンフレット「野川マップ」

参加費：300 円、初参加の方は名札代 200 円（必ず着用）

大雨の中を 11 人で歩く
－９月WHO報告－

WHO ウォーキング 9 月例会は、2 か月の夏休み明けのためか、「今月は参加する」というメールや電話が多く飛び交っていたようです。

ところが、数日前から、「線状降雨帯」、「記録的突風」「記録的大雨」と漢字だらけの予報。当日は前日からの雨は降り止まず。三鷹駅に集合したのは、11 人。行けるところまで行こうと決しました。

大沢の里は、1808（文化 5）年製の水車を持つ水車経営農家と養蚕、ワサビ栽培をしていた古民家、稲田と畑の構成です。この日は、稲田で地元の小学生の稲刈りの予定です。田植えから見守ってきた小学生ですが、雨のため中止になってしまいました．可哀想でしたが、子どもたちは何を学んだ

水車小屋農家の縁側で、説明を聞く
下は稲刈りを待つ田圃の中を歩く

でしょう。私たちはガイドから説明を聞きました。

雨の中を歩き出したら、稲田の脇の道にこの朝落ちたであろう栗のイガがありました。実(み)は 11 人で 1 粒しか拾えませんでした。それでも小さな「里の秋」が味わえました。

ほとんど寄り道もせず、休みもせず、11 人が古刹深大寺へ。いつもは賑わっている山門前は人もまばらでした。濡れたベンチで傘をさして昼食ともいかず、衆議一決、「元祖深大寺ソバ」の嶋田家に入りました。店内は余裕がありました。マスクを外すと、「マスクしてくれませんか、素顔だと名前がわからない」などと、しばしの談笑。東日本屈指の古刹、深大寺境内を散策。5 年前物置で発見された釈迦如来倚像を拝観しました。

最後は、神代植物公園の分園、水生植物園と深大寺城址を巡り、解散し、それぞれ帰路のバスに乗りました。　　（吉田明弘）

参加者 11 人。ワイズ関係参加は、石井、吉田（東京西）、中澤正子、藤江喜美子（東京たんぽぽ）、樋口順英（東京グリーン）、関喜一郎（元石巻広域）

YMCA Today

■ホテル学校では2学期がスタート。1 年生は長期のホテル実習が始まりました。93 人が 9 月 12 日～1 月 31 日まで、一都三県にある 36 ホテルで、1 学期に学んだサービスの技術や知識を実践する機会となります。

2 年生はやっと立食パーティーが行われました。会場は東京駅にある東京ステーションホテル。本来はホテル実習が終了する2月に行われる立食パーティーですが、コロナ禍の影響で2度の延期を繰り返し 9 月 7 日（水）に開催されました。このイベントはサービスする側、される側の相互理解を目的に学生主体で行われます。実行委員により、企画された余興や豪華な食事やデザート、そして学生たちは思い思いにドレスアップし、みんな満面の笑み！ を見せてくれました。

■「2022 災害スタディ」を東陽町センターで 9 月 3 日に開催。地域の諸団体や企業、障がいのある方、東京 YMCA 会員等 47 人が参加しました。福田信章氏（東京災害ボランティアネットワーク事務局長）を講師に迎え、防災街歩きプログラムを通して多様な視点から災害について学びました。

■「第 31 回インターナショナル・チャリティーラン」は、今年も歩数計アプリを利用したウォーキングイベントとして開催。個人参加の他、チームレースも行われ、ホテル学校も参加予定。後日結果報告いたします。

■今後の主なお知らせです。

「第 24 回愛恵エッセイ募集」11 月 11 日締切、テーマ「断絶を乗り越えて」

「ソシアス 2022」11 月 20 日オンライン講演、講師：川平朝清氏（元 NHK アナウンサー・昭和女子大学名誉教授）「沖縄復帰 50 年と平和について」

担当主事　横山弥利

☆☆☆インタビュー☆110☆
持田 二郎さんに聴く
東京クラブ

＊　＊　＊

―持田さんのお生まれは

「1933年に栃木県絹村（現小山市）で生まれました。家は地主で、父は町議などをしていました」

―幼い頃はどんな子でした。

「負けず嫌いでしたね。終戦の年に旧制中学に入学、卒業は新制中学の世代です。地元の高校に進学しましたが、とにかく東京に出たく、東京の大学に進みました。入学金は親に出してもらい、学費はアルバイトで稼ぎました。授業料は学生課長に頼んで月賦で払いました。1か月1,350円、大学としては初めてのことだったそうです」

―就職難の時代でしょ。

「大手建築会社で、機械メーカーだった東急車輌の営業マンになりました。消費者や流通相手ではなく、機械や車両を事業者に売り込む仕事でした。同期入社には負けたくないので、まさに夜討ち朝駆けでした。一生懸命やると訪問先もほだされて注文を出してくれるのです。こちらもうれしくなってますます励むという好循環です。早出も残業も報告しませんから誰も理由が分からないのです。業界トップセールスマンになりました。時間を作って、産業能率大学で学び、経営診断の資格を得ました。これは後に、得意先の問題解決に役立ちました」

―独立は。

「33歳で機械を扱う会社を設立しました。それまでの得意先に株を引き受けてもらえました。投資先ですから営業でも優先してもらえました。大株主として会社案内に記すと、信用が加わり銀行取引も有利になりました」

―経営の見通しがついたのは。

「お得意を持っての独立でしたから、最初から順調でした。大きく飛躍したのは、3年目くらい。販売、輸出、リースが順調に回り出した時からです。事務所は、しばらく神田鍛冶町におきましたが、その後、再開発された新宿副都心のビルに所有しました。おかげさまで、現在はフィリピンを含めて4社、53年間、10%配当を続けています。私は社長を退き、今は3代目の社長です」

―今日は、ここを終えてから会社に寄られますか。

「このまま帰ります。若い人に任せていますから、めったに顔を出しません。口出しもしません」

―持田さんは独特の経営感覚を持たれているように見えますが。

「仕事第一、お客さん第一です。自分が言うのもおかしいですが、私は、行動力、説得力、人から協力を得ること、人を援助すること、にはかなり自信を持っています。これでかなりのことが、やれたと思っています。頭の良い人、話の上手な人は、どこにもいますが、これでは決まった答えしか出ません。まず自分が汗をかいて、皆が協力しやすい“しくみ”をつくることです」

―持田さんは、お金にも汗をかかせている印象です。

―ところでワイズには、いつ入会されたのですか。

「1980年の入会です。それには、前段があります。私は1961年11月に29歳で結婚しました。彼女は高校時代からクリスチャンで、日本キリスト教団池袋西教会で金井為一郎牧師に司式をお願いしました。そして翌年のイースターに私も受洗しました。教会員に東京クラブの故谷川直臣さんがおられ、夫妻には熱心に入会を勧められました。同じ教会員の元区理事の故片岡武彦さんには娘の留学でお世話になりました。“道”が備えられていたように思っています」

―入会3年目でクラブ会長をされました。伝統ある東京クラブでは異例ではありませんでしたか。

「とにかく会員を増やそうと、1年間で54人にしました。もちろん皆の協力があってのことです」

―元アジア太平洋地域会長・田中博之さん（現東京多摩みなみ）も持田さんに誘われたと言っています。

「彼は東京YMCAの国際協力委員だったのです。NYフロストバレーYMCAを応援すると言ったら『仕事が忙しく例会に出られない。“不良会員”で良いなら』と言って入会しましたが、見事はまってくれました」

―クラブ設立では、所沢（加盟1987年）、松本（同1988年）、会津（同1993年）、新潟（同1993年）、川越（同1998年）と、5クラブの設立委員長を務められました。凄いことですね。

「それぞれに思い出がありますが、新潟は6年で、会津は今年解散となったのは残念です。つくるだけでフォローをしないという評もありました」

―それはムリだ。人も状況も変化するのだから、時間のかかるフォローは組織としてやらないと。

―チャリティーゴルフはでは、何か所かで実行委員長をやられ、どこでも毎回、参加者を大勢誘われますね。

「コンペは楽なんです。1人誘えば、4人で来てくれます。10人誘えば40人です。楽しければ翌年も申し込んでもらえますから」

―振り返られてワイズに加わってよかったですか。

「もちろん。いつも働き場があり楽しく充実感がありました」

―座右の銘はありますか。

「『有言実行』です」

―有難うございました。

（吉田明弘）

思い出を辿って⑩
本間立夫さん

村野絢子

山中湖の目黒クラブ家族キャンプで出会ったのが最初だと思う。ゴリラ、失礼ターザンが現れたと思った。そのキャンプが初参加だった長男義哉はキャンプネームが「チーター」となった。ターザンの肩にひょいと担がれて「この子の名前は？」と大声で聞かれたキャンパー達が口々に「チーター」と言い、即決された。〝キャンプのみんなチーターを食べよ、キャンプサイトでチーター食べよ〟と歌われ、決まった。

やはり目黒の家族キャンプで山中湖一周サイクリングがあり、私も参加した。気持ちよく漕いでいると「速いですね、競輪選手になれますよ」と本間さんに言われ「残念！」と思った？ ことも思いだす。チーターこと義哉は、高校を卒業し社体専の 1988 年の夏、本間さんの NYYMCA フロストバレーのキャンプリーダーをした。

1992 年第 1 回村野繁企画のフロストバレーツアーが行われ、石井一也、三田村宏・都夫妻、小山冶夫、操夫妻、ベルさん（鈴木節）、三女望…19 人の参加であった。1993 年第 2 回は教会の小峰敬子・主原公枝叔母、義哉・長女和泉…8 人で行われた。

義哉は立夫先生から「来年の夏来て欲しい」といわれ、父親をサポートする和泉を見て恵美子夫人から「フロストバレーで手伝って」と声が掛り、翌年 1994 年夏は義哉が、和泉は 1 年半フロストバレーYMCA のスタッフとして働いた。義哉の長男夏輝は小 5 の夏休みにキャンプに参加し、妹の咲弥子は 18 歳の時カウンセラーとしてひと夏参加した。

この様に本間夫妻の影響を受けた子どもや孫が、『当たって砕けよ』（本間立夫著）の精神で各々自立して歩んでいることを心から感謝している。

本間立夫さんのお仕事は日本中の YMCA のプログラムとなり生きている。フロストバレーに行ってご夫妻にお会いしたいと、コロナの今特に思う。

サフィール踊り子号に乗って

河原崎和美

最近、鉄道ファンに人気のサフィール踊り子に乗って伊東に行ってきました。

サフィール踊り子は、2020 年に開業しました。全ての車両がグリーン車でシートは3列になっており、海側の景色を見ながら鉄道の旅を楽しむというコンセプトです。1 号車のみがプレミアムグリーン車となっており、ここは 2 列シートです。とても予約が取り辛いとのことでしたが平日でしたので1号車に乗ることができました。

窓は広く上部にも窓があり採光も抜群に良い造りになっています。最近では新幹線でも食堂車を見かけなくなりましたが、サフィールにはとてもおしゃれな食堂車がついておりカレーが美味しかったです。

景色を見ながらカレーを食べ、席に戻ればゆったりしたリクライニングシートでリラックスしながら海を眺め、とても贅沢な時間を過ごすことができました。

豪華な内装のプレミアムグリーン車

サフィールとはフランス語でサファイアの意味だそうで、ブルーの車体もとても美しかったです。素敵な夏の思い出ができました。

（p3・3 段目から続く）

ぼに戻し化学肥料は一切使わず米作りをされていた。

電気も自家発電され、車も電気自動車に改造され生活のほとんどを自前、感心しきりで、山間の里を見学し、近くのダムの近くにある神通教岩稲温泉楽今日館の温泉で体を癒しました。島田茂さんと別れ、小松空港に。午後 6 時 50 分発で羽田に着き、旅を終えた。

編　集　後　記

季節の変わり目が早く、秋を通り過ぎ、冬を感じさせる日がきてしまった様に感じるこの頃です。

そんななか皆様から寄せられた原稿、感謝しつつ紙面におさめ安堵しています。

私のつたない記事も掲載させていただきました。また次の担当の時に苦慮しそうですが…。

これからも楽しい記事を寄稿して下さい。よろしくお願いいたします。　（O/T）